

# 教宣 せぶん

## シュプレッヒコール

昨日は全国各地で労働者の祭典である「メーデー」が行なわれました。「メーデー」では、きっと私たちが配るピラを手にとってくれた参加者がたくさんいたことだと推察します。「50万枚ピラ」運動も、昨日一日で大きく前進したことでしょう。

私が参加した地方都市のメーデーでも、もっと人手さえあれば、メーデー会場だけで2000枚くらいのピラは配ることができたと思いますが、配り手が2人だったこともあり、メーデー会場では650枚のピラを配りました。その後のポスティングと合わせ、計1000枚のピラを一日で配りました。コンパクトで、配りやすいピラなので、手早くでき、とても効率的でした。こんなところにも、運動の「工夫」が施されていると感じました。

この「メーデー」では、以前からデモコースに東京海上日勤社支店前が入っています。デモ行進が支店前にさしかかった時、「東京海上日勤社は控訴を取り下げろ」というシュプレッヒコールが支店ビルに発せられました。事前に主催者である県労連の事務局長に「できればシュプレッヒコールをしてもらえないでしょうか？」というお願いをしたのですが、応えてくれたのです。突然のシュプレッヒコールに感激しました。また、ピラ配りの許可を取った際も「例の50万枚ピラですか？」と私たちのいまの運動をしっかり理解してくれていましたし、会場でピラを配っていると書記の方が「あちらの場所の方が人通りありますよ」と教えてくれたり、支店前要請行動や団体署名などで協力・支援して頂いた国公労共の事務局長も勝利判決が下されたことに対して「とりあえずだけ良かったね」と声をかけてくれたり、私たちのたたかいに袖すりあって頂いた多くの方々が、引く続き私たちのたたかいに注目してくれていることを実感しました。本当にありがたいことだと思いました。

おそらくこの感謝の念を全国各地のメーデーに参加した組合員も感じたのではないのでしょうか。そして、それぞれの会場で、世論に訴える運動を行ない、その広まり、感触に、あらためて勝利への確信、解決への確信をつかんだのではないのでしょうか。私たちが世論に訴える運動は、いまさらに確実に世論に広まっています。

株主総会まで残りおよそ50日。いままでのたたかいを通して、私たちはその局面、局面で、できることはすべてやり切ってきたと自負しています。この50日間も、できることはすべてやり切り、株主総会を迎えましょう。一人ひとりの「行動」が勝利に、解決に直結していきます。一人ひとりの「真剣さ」が人々の共感を引き起こします。そして一人ひとりの勝利への「執念」が、東京海上日勤経営の資本としての歪んだコダワリを捨てさせる力となります。全損保らしさ、日勤外勤支部らしさを発揮し、50日間徹底的にたたかきましょう。